

# 人権学習展開例

**主 題 名** 情報社会における人権

**教 材 名** 情報社会に潜む罠を発見せよ

**人権学習の視点** 個別的な視点「さまざまな人権問題（情報社会と人権）」

**主題・教材について**

近年、携帯電話やパソコンなど、情報機器が急速に普及し、非常に多くの情報が容易に得られると同時に、コミュニケーションの手段としても欠くことのできないものとなってきた。しかし、情報社会の影の部分として、他人を誹謗中傷する表現や、同和問題など様々な人権問題にかかわって差別を助長する表現等、個人や集団にとって有害な情報の掲載等の人権侵害事象が増加している。

インターネットを利用した人権侵犯事件の推移（法務省）や人権擁護に関する世論調査（内閣府）、新聞記事等を活用して、情報社会の課題を理解し、情報発信に伴う責任を自覚するとともに悪意のある情報を見抜くなど受信した情報を正しく判断できる資質を養いたい。

**ね ら い**

インターネットによる人権侵害等、情報社会の課題について理解し、情報発信に伴う責任を自覚するとともに、偏見や差別を助長する情報や誤った情報を見抜き正しく判断できる態度を養う。

**本時の展開**

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
導入	○本時の学習課題を知らせる。	一斉	○本時の学習課題を知る。		
展	<b>情報社会の特徴を知ろう。</b>				
	○インターネット利用者や普及率が急速に普及したことを知らせる。	一斉	○インターネット利用者や普及率が急速に普及したことを知る。	○インターネット接続機器についてはパソコン、携帯電話、ゲーム機等あらゆるものを含む。	生徒資料1
	○情報社会の特徴を理解させる。	一斉	○情報社会の特徴を理解する。	○情報入手、情報発信、コミュニケーション等の便利さをおさえる。	生徒資料2
○情報社会の影の部分を知らせる。	一斉	○インターネットを利用した人権侵犯事件が増加していること、また、その内容について知る。	○プライバシー情報の掲載事案、差別の助長事案の紹介。20歳代の世論調査では誹謗中傷が大変多いこと、平成15年調査よりどの項目も増加していることをおさえる。	生徒資料3 指導資料	
開	<b>なぜインターネット上で人権侵害や人間関係のトラブルが起こりやすいのか考えてみよう。</b>				
	○インターネット上で人権侵害や人間関係のトラブルが起こりやすいのはなぜか考え、発表させる。	個別 一斉	○インターネット上で人権侵害や人間関係のトラブルが起こりやすいのはなぜかを考え、発表する。	○日常生活を振り返らせ、様々な意見を出させる。	
	○生徒資料4で確認する。	一斉		○匿名性、密室での作成、画面と自分だけの世界という環境は、外からの抑止力が働きにくい状況であることを、その結果、新聞報道にあるような事象が起こることをおさえる。	生徒資料4

情報発信する者の責任を理解しよう。					
展 開	○情報社会が発展した現在では、情報発信する一人一人が大きな責任を持たねばならないことを理解させる。	一斉	○情報社会が発展した現在では、情報発信する一人一人が大きな責任を持たねばならないことを理解する。	○自動車の運転と同様に、便利な反面、使い方を誤ると大きな事故になる。また使い次第では、人の命をも奪う凶器にもなる。  ○放送局は放送倫理確立のために組織的な体制を整えている。	生徒資料5
	情報社会に潜む罠を見抜こう。				
開	○悪意を持って書き込まれた差別的な情報を読んで、私たちの判断基準が揺いでしまうポイントについて考察させる。	個別 一斉	○自分たちはどのような記述に対して、判断基準が揺らぐのかを考え、意見を交流する。	○書き込みを読んで、インターネット上の情報を無批判に受け入れる可能性に気付かせる。  ○欄外補足説明	生徒資料6 ワークシート1
	○同和問題など様々な人権問題に関わる偏見や差別を助長する情報に出会ったとき、それらの情報に惑わされたり、偏見にとらわれないようにするためにはどうすればいいか考えさせる。	個別 一斉	○偏見や差別を助長する情報に出会ったとき、それらの情報に惑わされたり、偏見にとらわれないようにするためにはどうすればいいか考え、意見を交流する。	○人権とは何か、どのようなことが人権侵害か、ステレオタイプのものの見方など普遍的な視点と個々の人権問題に対する理解を深めていくことの大切さなど個別の視点をおさえ、これからの人権学習の必要性を確認する。	ワークシート2 項目2
まとめ	○学習を通して学び、考えたことを振り返らせる。	個別	○学習を通して学び、考えたことを振り返り、感想を書く。		ワークシート2 項目3

## 評価

インターネットによる人権侵害等、情報社会の課題について理解し、情報発信に伴う責任を自覚するとともに、偏見や差別を助長する情報や誤った情報を見抜き正しく判断できる態度を養うことができたか。